

駒ヶ根市文化芸術振興指針

令和3年3月

駒ヶ根市教育委員会

目 次

1 指針の策定にあたって	
（1）指針策定の趣旨	1
（2）指針の位置づけ	1
（3）指針が対象とする文化芸術の範囲	1
2 文化芸術活動の現状と課題（現状認識）	
（1）文化芸術を取り巻く社会情勢の変化（時代の潮流）	3
（2）駒ヶ根市の文化芸術活動の現状と課題	4
（3）駒ヶ根市の特性	5
（4）駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査について	6
3 基本目標と施策の方向性	
（1）基本目標	7
（2）めざす姿	8
（3）施策の方向性	9
（4）施設の展開（展開例）について	10
4 指針の推進と役割分担	
（1）施策推進の視点	12
（2）期待される役割	12
5 資料	13
（1）駒ヶ根市文化芸術振興懇話会委員	
（2）アンケート調査について	

1 指針の策定にあたって

(1) 指針策定の趣旨

近年、経済的な豊かさばかりでなく、心の豊かさを重視し、自然や文化芸術、健康への志向など、生活の質を大切にする意識が広がっています。

このような中、文化芸術は、人々に楽しさや感動、安らぎや生きる喜びをもたらし、心豊かな生活を実現する上で不可欠なものになっています。

またここにきまして、文化芸術の持つ、地域社会全体を活性化させて、魅力ある地域づくりを推進する力などが広く認められ、文化芸術の振興は、これまで以上に大きな意義を持ってきていると言えます。

駒ヶ根市では、地域に根付いた風土や文化が継承されてきました。また、時代の変化に伴い今を生きる世代が新たな感性で創造する多様な文化芸術も育まれつつあります。

この指針は、文化芸術を取り巻く環境の変化を踏まえて、中長期的な視点に立った、駒ヶ根らしい文化芸術振興のための基本目標や施策の方向性等を明らかにし、当市の文化芸術振興施策を効果的に展開するために策定するものです。

(2) 指針の位置づけ

この指針は、市政運営の最も基本となる「第4次総合計画」を踏まえ、文化芸術分野における中長期的な視点に立った基本目標や施策の方向性を定めるもので、文化芸術基本法（平成13年法律第148号）第7条の2第1項に規定する文化芸術推進の方向性を定めるものです。

この指針で示す基本目標や施策の方向性は、市民、文化芸術団体、関係機関等が共有し、駒ヶ根市の文化芸術振興のための共通指針とします。各主体は連携を図りながら文化芸術振興に取り組んでいくことが必要です。

(3) 指針が対象とする文化芸術の範囲

一般的に「文化」は、芸術と呼ばれるものから衣食住をはじめとした人間の生活様式に至るまで、その範囲はかなり幅広く捉えることができますが、本指針が対象とする範囲は、「文化芸術基本法」（平成13年12月施行）が対象としている文化芸術を基本とします。

<文化芸術振興基本法が対象とする範囲>

- ① 芸術（文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊等）
- ② メディア芸術（映画、漫画、アニメーション等）
- ③ 伝統芸能（雅楽、能楽、文楽、歌舞伎等）
- ④ 芸能（講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱等）
- ⑤ 生活文化等（茶道、華道、書道、国民娯楽、出版物等）
- ⑥ 地域における文化芸術（伝統芸能・民俗芸能等）

※ 一般的に「文化」は、芸術と呼ばれるものから衣食住をはじめとした人間の生活様式に至るまで、その範囲はかなり幅広く捉えることができます。

また、文化芸術の振興は、「人を感動させ魅了する」「地域の魅力や価値を高める」等の力を持っているなど、地域づくりや観光振興、などの取り組みとも密接に関連していることから、文化芸術振興の目的に沿うこれらの周辺分野（地域づくりの部分）についても、「文化芸術」ととらえることができるところです。

ただ、これらすべてを対象とすることは難しいことから、この指針が対象とする「文化芸術」の範囲は、文化芸術基本法との整合性を踏まえ、基本法が対象としている範囲を基本とします。

2 文化芸術活動の現状と課題（現状認識）

（1）文化芸術を取り巻く社会情勢の変化（時代の潮流）

① 人口減少の急速な進行と超高齢社会

少子高齢化に伴い、令和2年10月の駒ヶ根市推計人口では、当市の老年人口割合が3割を超えるとともに、今後も人口減少が続く見通しである中で、文化芸術活動の参加者・鑑賞者等の減少や高齢化による活動の衰退が懸念されています。

男女とも平均寿命が全国有数の長さである長野県の中にあつて、学習期、引退期に限らず、生涯にわたつて文化芸術に親しみ、楽しむことができる社会づくりが求められています。

② 社会意識の変化と高度情報通信社会の進展

高度成長期・安定成長期を経て、物の豊かさよりも心の豊かさを重視する意識が高まり、社会が成熟に向かう中で、心の豊かさを実現する文化芸術の価値がさらに高まっています。

このような中で、人々が文化芸術の場に参加する機会を通じて、多様な価値観を尊重し、他者との相互理解が進む機能といった文化芸術の果たす役割が、改めて求められています。

ネット社会にあつて、スマートフォン等に代表される情報通信技術（ICT）の急速な普及は、デジタル化された文化芸術を、いつでも、どこでも楽しみ、学ぶことを可能にしたほか、二地域居住やテレワーク等により時間や場所にとらわれずに働いたり、創作活動を行うことを可能にしました。

また、様々な分野で人工知能（AI）の利用をはじめとする技術革新が進み、産業のみならず、働き方や暮らし方が大きく変わることが予想される中で、一人ひとりがクリエイティブな発想（創造力）を持つことが一層求められています。

③ 新型コロナウイルス感染症の影響

新型コロナウイルス感染症（以下「感染症」という。）については、感染拡大を防ぐための活動自粛要請及び緊急事態宣言の実施により、社会生活全体に大きな影響を与えています。緊急事態宣言の全面解除後も国・県より示された「新しい生活様式」により、市民の文化活動は様々な工夫や対応が必要な状況にあります。

④ 国際交流やグローバル化の進展

東京オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京大会」という。）は、感染症の影響で2021年へ延期されています。

今後、感染症が沈静化し東京大会が開催されることにより、地域に根差した文化や伝統行事といった文化芸術の価値を世界に向けて発信する好機であることから、全国各地での文化プログラムの実施が求められています。

また、令和元年の訪日外国人旅行者は3,188万人を超えるなど、インバウンドも進行しつつありましたが、同様に感染症の影響で、令和2年度以降は激減し、先行きが不透明な状況にあります。

そして、当市では、青年海外協力隊訓練所（JICA）及び青年海外協力協会（JOCA）の本部事務所の所在地として、これまで国際交流を柱としてまちづくりを進めてきています。令和2年度は感染症の影響により、派遣隊員が一時帰国している状況にありますが、これまでの国際交流の歴史を踏まえ、ベネズエラ、ネパールを相手国とするホストタウンに登録しており、今後は、これらの国を含む多くの国との文化交流の一層の推進が求められています。

⑤ 文化行政の動向

駒ヶ根市では、文化センター北側に赤穂公民館、ホールを併設し、当市の文化芸術振興、生涯学習等の拠点として、令和2年7月より開館しています。（ホールは10月から開館）

国では、劇場や音楽ホールの活性化を図るため劇場、音楽堂等の活性化に関する法律（平成24年法律第49号）（以下「劇場法」という。）を制定するとともに、文化芸術と関連分野との連携を視野に入れた総合的な文化芸術施策の展開を図るため、2020東京大会の開催等を見据え、文化芸術基本法への改正、「文化芸術振興基本計画（第1期）」の策定が行われています。

（2）駒ヶ根市の文化芸術活動の現状と課題

- ・文化芸術コンテンツの作成やネット上の情報発信が少ない（人、地域。外部とつながっていない）。
- ・市のホームページでも文化活動の紹介が少ない。
- ・文化財団の役割である施設管理、文化振興のうち、文化振興のできる体制整備、意識改革をすべきである。
- ・文化センターや公民館で学んだ結果が地域社会に還元できていない場合がある。
- ・文化芸術に直接接する機会が少ない。
- ・表現芸術、現代アート、彫刻などの発表の場が少ないこと。発表の拠点（施設）があって発展していくことも大事。
- ・駒ヶ根でしか表現できないものは、風景なのか、人々の営みなのか、あるいは産業なのか、食べ物なのか、いろいろある。駒ヶ根らしさを情報発信すればよい。情報を発信することで認知され、文化となる。
- ・文化を守らない行政が、どうやって文化を推進していくのかと思う。情報を発信するという事は、駒ヶ根らしさを発信するという事。

(3) 駒ヶ根市の特性

- ・観光と文化をつなげることが必要。山岳観光都市であることから文化との連携できたら、駒ヶ根らしさになる。
- ・今までやってきた活動の濃さや情熱をお互いたたえ合っている様子は、駒ヶ根の特徴。
- ・ふたつのアルプス、天竜川、ロープウェー。自然自体が文化になることを考えても良い。JICAも駒ヶ根の文化の特色になる要素ではないか。個々でやっていることを組織化し、何らかの形でつなげていく時に駒ヶ根の自然環境が元になる可能性がある。
- ・何をおいてもアルプスと早太郎だと考えている。
- ・ここにしかないものが大事な財産。失われかけているが失ってはいけないもの。これが文化のもと。原点を見直す。よそになく、ここにあるものをもう一度見つけて、つなげていくことから始めないと。ただ文化活動をしていると言っても、将来につながらない。
- ・ロープウェーもひとつの文化。稼ぐための施設と考えず、多くの人々が自然を満喫できる施設があるということは財産。青年海外協力隊。歴史的な建造物として五十鈴神社や大御食神社、光前寺、また小さいながら昔からの寺社がある。

(4) 駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査について

① 調査の目的

駒ヶ根市では、文化芸術に対する市民の皆様意識や活動状況、課題等を把握し、本市における文化芸術振興のための具体策を検討する資料としてアンケートを実施した。

② 調査数等

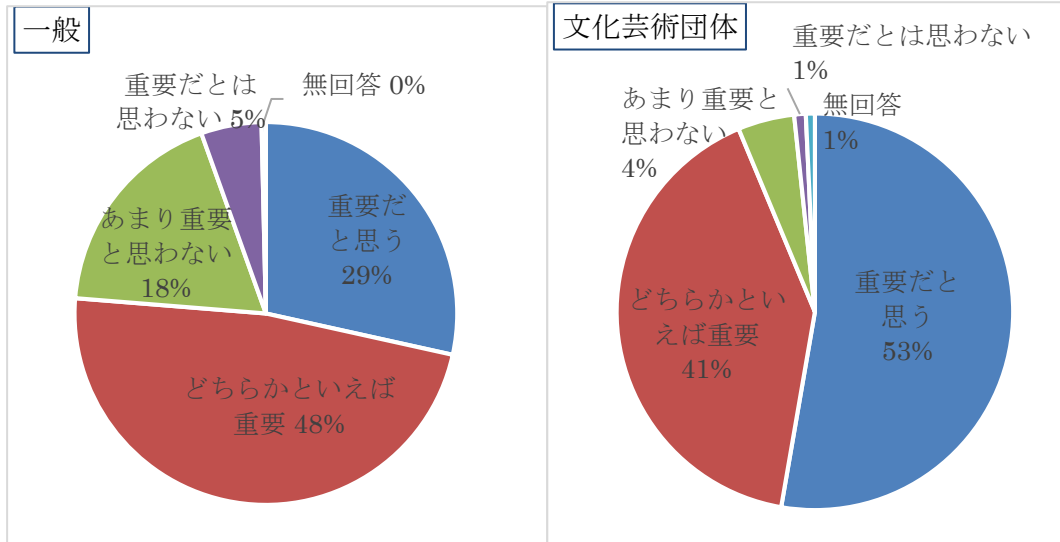
- ・配布数 4,004 件（公民館文化団体、文化センター各団体、一般市民）
- ・回答数 1,235 件

③ 調査期間

- ・令和元年6月13日（木）～令和元年7月31日（水）

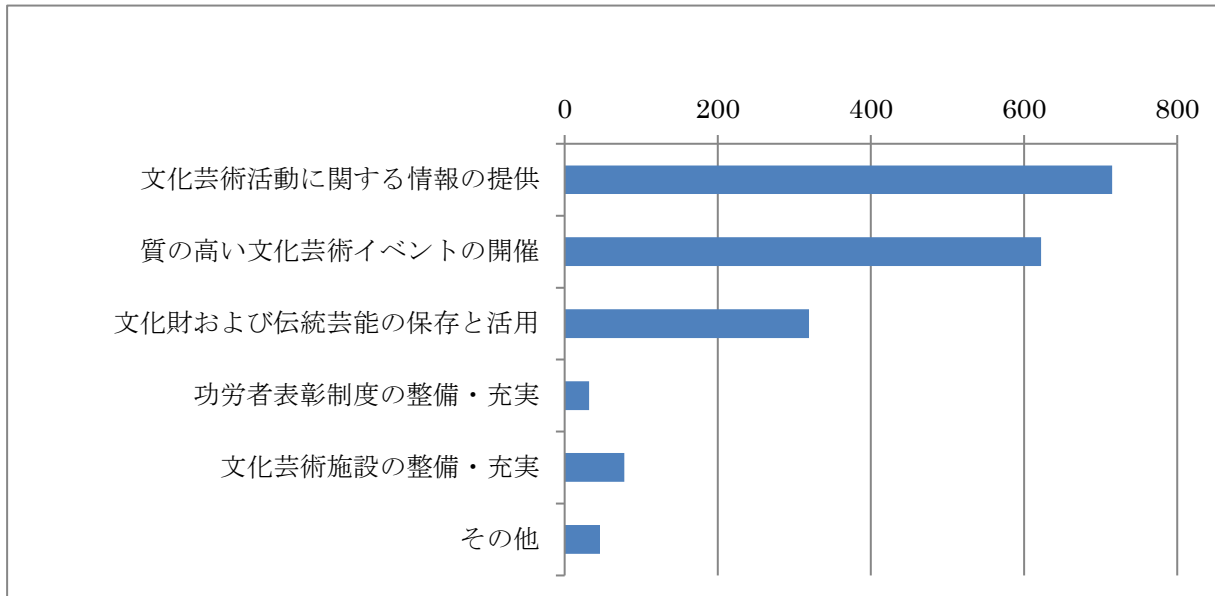
④ 調査結果について（一部抜粋）

設問) あなたは、日常生活の中で優れた文化芸術を鑑賞したり、自ら活動を行ったりすることはどの程度重要だと思いますか。次の中から1つお選びください。



「重要だと思う」と「どちらかといえば重要」を合わせて、一般では約8割の人が、また、文化芸術団体では9割以上の人が、日常生活の中で文化芸術に触れることに関し、重きを置いていることが分かる。

設問) あなたは、市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市が行うものとして何が重要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。



市は「質の高い文化芸術イベントを開催」し、「文化芸術活動に関する情報」を催物の世代に合った多様な方法で発信することが求められている。また、「文化財および伝統芸能の保存と活用」も17%選択されている。

⑤ アンケートを受けてのまとめ

文化芸術に関する情報発信

「文化芸術活動に関する情報」があらゆる世代に提供できる情報発信方法を検討する必要がある。市と文化芸術団体の両方に、「市民に対する文化芸術活動に関する情報の提供」が期待されており、催事の告知やメンバーの募集等の発信が求められている。情報を集約する核となる拠点を整備し、情報の発信やイベントの日程調整が期待される。

市民のニーズを踏まえた質の高いイベントの開催

子供たちが文化芸術に親しむ機会を増やしたり、子育て世代でも気軽に行けたり、高齢化社会に向けて、自宅や地域だけで過ごしている人も楽しめるよう、場所や時間など世代のニーズに合ったイベントの提供が求められる。また、「質の高い」イベントの提供が求められている。

文化財および伝統芸能の保存と活用

駒ヶ根市が「文化芸術活動が盛んなまち」だと思ふ人のうち20%は文化財や郷土芸能が保存・継承されていると感じている。一方で、伝統芸能の継承者の高齢化により、次世代への継承が困難になってきていることもあり、市や文化団体へも「文化財および伝統芸能の保存と活用」や「継承活動」への取り組みが期待されている。

少子高齢化が進んでいる本市において、あらゆる世代が参加でき、人々の心が癒され、市内外での交流活動が活発となる文化芸術の役割は一層増している。また一方で、文化とは、自分で取り組み、活動し、楽しみ、見るものであり、強制的に押し付けられるものではない。

市民一人ひとりが文化芸術に親しみ、教養を高め、心豊かで活力のある地域づくりが望まれる。そのために、本市の文化芸術振興にかかる理念や市の責務等の明確化とともに、文化芸術にかかる各施策を今まで以上に総合的、計画的に推進していくことが必要である。

3 基本目標と施策の方向性

(1) 基本目標

楽しさや感動、安らぎなどをもたらす文化芸術は、市民が真にゆとりと潤いを実感できる心豊かな生活を実現していく上で不可欠なものとなっています。

また、文化の持つ、人々に元気を与え地域社会全体を活性化させて、魅力ある社会づくりを推進する力、つまり「文化力」が、地域の魅力を高めたり、経済的な付加価値を生み出すなど地域の発展に重要な役割を果たしています。

市民一人ひとりが文化芸術に親しみ、感性を磨き、また地域の文化力を高めることにより、人が元気になり、地域が賑わい、経済活動にも活力が生まれ、さらには、人と人が互いに理解し尊重しあう心豊かな社会が築かれるものと考えます。

文化芸術の振興を通じて、市民・地域が輝く駒ヶ根市を創造します。

(2) めざす姿

① 文化芸術に広く親しみ、文化芸術活動に参加できる環境づくりができていること。

市民の皆さんが文化芸術に親しみ、様々な文化芸術活動に参加することで、市民一人ひとりが心豊かに暮らすことができる。

② 特色ある文化芸術を創造する人づくりができていること。

地域の文化的・歴史的資産を磨き、活かすことにより、地域の文化力を高め、その地域ならではの人づくりを推進します。

③ 特色ある文化芸術、文化芸術活動を活かした地域づくりができていること。

文化力を地域の発展やまちづくりに活かし、地域の魅力や活力を創造・発信します。

- ・小さいころの経験が大人の活動に大きく影響している。小学校のころから文化芸術・芸能に触れ、関心を持たせることが大切。
- ・芸術活動について、やってみたいという意欲のある人が取り組める環境整備（ソフト・ハード両面から）が必要
- ・子どもたちが歌、演劇、絵画、手芸などいろいろな芸術に触れられることが大事。
- ・金銭的に見ても、一般家庭では芸術にかかる費用は少ないが、だからといって芸術が私たちの生活の中で必要ないかといったら、そうではない。日々の生活に潤いを与えたり、生きがいになったりする。
- ・言葉や形にしづらい、結果が見えにくい「文化芸術（人間生活の基本、根源）」をどのように子どもたちに伝えるか、伝える環境を整えることが重要。
- ・駒ヶ根市の歴史や郷土芸能、文化芸術を理解することが必要
- ・多様な文化芸術活動が様々な場所で目に見える形で表現されていることが大事。
- ・このまちに暮らして良かった、このまちを皆に紹介したい、みんなに来てもらいたい、ここがふるさとで良かったと思えるものを、文化芸術を通して表現できると良い。

(3) 施策の方向性

◆めざす姿

① 文化芸術に広く親しみ、文化芸術活動に参加できる環境づくりができています

◆施策の方向性

ア 文化芸術に親しむ機会の拡大

イ 文化芸術・学習施設の拠点施設の整備・機能強化

ウ 情報発信の推進

エ 文化芸術講座の充実と市民への周知

◆めざす姿

② 特色ある文化芸術を創造する人づくりができています

◆施策の方向性

ア 文化芸術振興の推進体制の強化

イ 文化芸術を担う多様な主体の連携・充実

ウ 文化芸術団体の活性化

エ 子どもたちの文化芸術活動への参加機会の拡大

◆めざす姿

③ 特色ある文化芸術、文化芸術活動を活かした地域づくりができています

◆施策の方向性

ア 地域文化に対する意識の高揚

イ 国際文化交流の拡大

ウ 文化芸術と福祉・産業・観光との連携

(4) 施策の展開（展開例）について

① 文化芸術に広く親しみ、文化芸術活動に参加できる環境づくり

ア 文化芸術に親しむ機会の拡大

- ・優れた文化芸術の鑑賞機会や市民の創作活動・発表の場を広く提供し、子どもから高齢者まで、また普段、文化芸術に接する機会の少ない方々を含め、市民の自主的・主体的な文化芸術活動の機会の拡大の促進
- ・市民に対する活動支援及び自主事業の充実
- ・駒ヶ根市出身の芸術家の発表会の開催及び指導を受ける機会の確保（市内外で頑張っている方々をお願いする）
- ・現在実施しているイベント等、まとめる形で、例えば一週間程度のフェスティバル等の実施
- ・市民ニーズを踏まえた質の高いイベントの開催
- ・ウィズコロナ・アフターコロナ社会における新たな生活様式に対応した取組みの推進

イ 文化芸術・学習施設の拠点施設の整備・機能強化

- ・市民が気軽に文化活動を行うことのできるような施設を目指し、文化センター・地域交流センターとの連携・機能強化を図る。
- ・地域交流センター整備に伴う文化施設の集約化及び効率化

ウ 情報発信の推進

- ・市民の多様なニーズに応えることができるよう、文化芸術等の情報を市公式ホームページへ掲載、CATVとの連携、SNSなどの媒体の多様化に対応した発信の実施
- ・文化芸術活動の一元的な情報発信
- ・イベント・行事が重ならないよう情報の共有・整理
- ・市民を巻き込んだ情報発信(宣伝活動)

エ 文化芸術講座の充実と市民への周知

- ・多様な文化芸術活動ができるよう既存の文化芸術講座の充実や新しい講座の充実と市民への周知

② 特色ある文化芸術を創造する人づくり

ア 文化芸術振興の推進体制の強化

- ・文化芸術振興のための推進体制の整備（人的体制）など
- ・地域交流センター整備を踏まえ、赤穂公民館及び文化財団等管理運営体制の整備・強化

イ 文化芸術を担う多様な主体の連携・充実

- ・文化団体・芸術団体等の連携、支援、ネットワークの構築
- ・近隣市町村との連携した取組み
- ・文化芸術を担う多様な主体による（仮称）駒ヶ根文化協会の設立（懇談会）

ウ 文化芸術団体の活性化

- ・「早太郎」「駒ヶ岳」などを統一テーマとした芸術発表会の開催（支援制度の創設）

エ 子どもたちの文化芸術活動への参加機会の拡大

- ・ジュニア駒展、ジュニア和楽器隊、エル・システムなど子どもたちの文化芸術活動の拡大
- ・子どもたちが歌、演劇、絵画、手芸などいろいろな芸術に触れられる機会の拡大

③ 特色ある文化芸術、文化芸術活動を活かした地域づくり

ア 地域文化に対する意識の高揚

- ・文化財及び伝統芸能の保存と活用
- ・市の歴史や郷土芸能、文化芸術を理解する意識の高揚を図る必要がある。
- ・市の総合的な文化行政推進に向けた体制整備

イ 国際文化交流の拡大

- ・東京オリンピック・パラリンピックに関連した文化交流の推進
- ・青年海外協力隊訓練所（JICA）との連携

ウ 文化芸術と福祉・産業・観光との連携

- ・障がい児・者の文化芸術の推進
- ・誰もが活躍できる生涯活躍のまちづくり
- ・フットパス等を利用した地域の発掘・発信
- ・地域の伝統文化を活かした観光振興

4 指針の推進と役割分担について

(1) 施策推進の視点

① 市民の自主性や創造性の尊重

市民の一人ひとりの考え方や価値観を、お互いに認め、支えあいながら多様な文化芸術に触れ、楽しみ自ら主体的に活動する。

② 市民、市、文化施設の連携の推進

市民一人ひとりの文化芸術活動を支え、発展させるためには、市民、市、文化施設等の連携が重要であり、それぞれの機関は、適切な役割分担のもと、お互いに連携し、施策を一体となって効果的に展開する。

③ めざす姿の共有

市の文化芸術振興のめざす姿を共有し、文化芸術振興施策を展開する。

(2) 期待される役割

① 市民の役割

- ・ 文化芸術活動の主役は市民であり、市民一人ひとりが、地域の歴史や風土に誇りを持ち、文化芸術への理解を深め、伝承するとともに、新たな文化芸術の創造の担い手として、積極的に文化芸術活動に参加する。

② 市の役割

- ・ 市は、「基本目標」・「めざす姿」の実現に向けて、市民、文化芸術団体等と認識を共有して、「施策の方向性」に定める取り組みを着実かつ、計画的に実施する。
- ・ 市は、文化財団とともに、他の実施主体の文化芸術活動の支援、連携を進めるほか、国際交流や先進的な公演、一元的な情報発信などを実施し、駒ヶ根市全体の文化芸術の振興を図る。

③ 文化施設等の役割

- ・ 市文化施設は、地域における文化芸術活動の鑑賞、創造、育成、支援、交流及び生涯学習の中核的な拠点として役割を担う。

5 資 料

文化芸術振興の意義（国の基本的な方針より抜粋）

文化芸術は、最も広義の「文化」と捉えれば、人間の自然との関わりや風土の中で生まれ、育ち、身に付けていく立ち居振る舞いや、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式、価値観等、およそ人間と人間の生活に関わる総体を意味する。

他方で、「人間が理想を実現していくための精神活動及びその成果」という視点で捉えると、その意義については、次のように整理できる。

第一として、豊かな人間性を涵養（かんよう）し、創造力と感性を育む等、人間が人間らしく生きるための糧となるものである。

第二として、他者と共感し合う心を通じて意思疎通を密なものとし、人間相互の理解を促進する等、共に生きる社会の基盤を形成するものであると言える。

第三として、新たな需要や高い付加価値を生み出し、質の高い経済活動を実現するものであると言える。

第四として、科学技術の発展と情報化の進展が目覚ましい現代社会において、人間尊重の価値観に基づく人類の真の発展に貢献するものであると言える。

第五として、文化の多様性を維持し、世界平和の礎となるものであると言える。

このような文化芸術は、国民全体の社会的財産であり、創造的な経済活動の源泉でもあり、持続的な経済発展や国際協力の円滑化の基盤ともなることから、我が国の国力を高めるものとして位置付けておかなければならない。

我が国は、このような認識の下、心豊かな国民生活を実現するとともに、活力ある社会を構築して国力の増進を図るため、文化芸術の振興を国の政策の根幹に据え、今こそ新たな「文化芸術立国」を目指すべきである。

駒ヶ根市文化芸術振興懇話会 委員名簿

(敬称略)

	氏 名	所 属
1	海老名 敏宏	メディア・まちづくり (メディア芸術分野)
2	春日 俊也	商工会議所 (学識)
3	北原 美香	元教育委員・ジュニア和楽器隊 (学識・音楽)
4	木下 五郎	現代工芸作家 (工芸・彫金分野)
5	坂井 宏光	アクターズゼミナール伊那塾 (学識)
6	富成 勇夫	美術家 (美術分野)
7	肥野 みさを (山田 秀明)	駒ヶ根郷土芸能保存振興会 (郷土芸能分野)
8	松崎 ひとみ (松崎 剛也)	劇団サムライナッツ (演劇分野)
9	三澤 照男	駒ヶ根音楽文化協会 (音楽分野)
10	山本 美子	公民館運営審議会 (文化団体)
11	湯澤 啓子 (菅沼 桂子)	勤青・女性ふれあい館 (文化団体)

駒ヶ根市の文化芸術に関する アンケート調査結果

1 調査の概要

(1)調査の目的

駒ヶ根市では、文化芸術に対する市民の皆様の意識や活動状況、課題等を把握し、本市における文化芸術振興のための具体策を検討する資料としてアンケートを実施した。

(2)調査

・回答サンプル数…1235

・調査アンケート配布先…4004

①駒ヶ根市赤穂、中沢、東伊那の3公民館にて活動をしている文化団体…1666

②勤青女性ふれあい館各団体…338

③一般市民(20～59歳の男女)…2000

(3)調査方法

・①と②に対しては、公民館、文化センターを通して各団体へ配布していただき、団体毎に回収。

・③へはアンケート用紙を郵送。

(4)調査期間

令和元年6月13日(木)～令和元年7月31日(水)

※令和元年8月31日到着分まで調査対象とした。

2 回答者の属性

性別(表1-1)

	男性	女性	無回答	総数	全体に対する割合
一般市民	106	161	7	274	22%
文化芸術団体	212	712	37	961	78%
合計	318	873	44	1235	100%

●回答者では女性の割合が多くなっている。

●郵送による市民アンケートの回答は回答全体の22%、文化団体の回答は全体の78%。

年齢(表1-2)

	10歳代	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳以	無回答	合計
一般	0	38	77	77	73	2	2	0	5	274
	0%	14%	28%	28%	27%	1%	1%	0%	2%	
文化芸術団体	4	17	29	52	108	218	359	153	21	961
	0%	2%	3%	5%	11%	23%	37%	16%	2%	
合計	4	55	106	129	181	220	361	153	26	1235
	0%	4%	9%	10%	15%	18%	29%	12%	2%	

●回答者の年齢層は60歳代以降が50%を占めている。

居住年数(表1-3)

	10年未満	10～19年	20～29年	30～39年	40～49年	50年以上	0年	無回答	合計
一般	71	32	57	35	36	35	0	8	274
	26%	12%	21%	13%	13%	13%	0%	3%	
文化芸術団体	63	68	68	101	137	391	44	85	957
	7%	7%	7%	11%	14%	41%	5%	9%	
合計	134	100	125	136	173	426	44	93	1231
	11%	8%	10%	11%	14%	35%	4%	8%	

●居住年数も、50年以上の層が多く、長く駒ヶ根市にお住まいの方が多。

文化芸術団体加入の有無(表1-4)

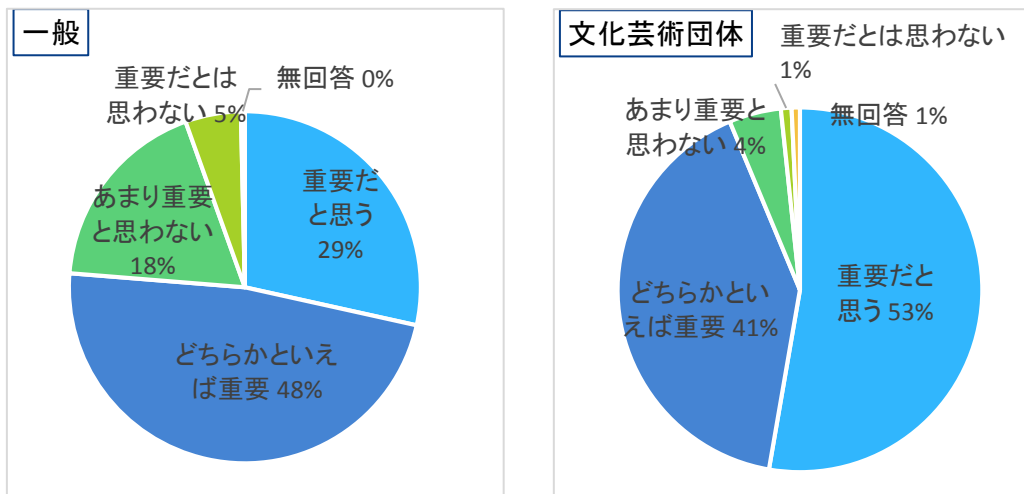
	加入している	加入していない	無回答	合計
一般	17 6%	257 94%	0 0%	274
文化芸術団体	721 75%	210 22%	27 3%	958
全体	738 60%	467 38%	27 2%	1232

●文化芸術団体に加入されている方は6割である。

3 調査結果

問2 あなたは、日常生活の中で優れた文化芸術を鑑賞したり、自ら活動を行ったりすることはどの程度重要だと思いますか。次の中から1つお選びください。

(グラフ2)



●重要度について
「重要だと思う」と「どちらかといえば重要」を合わせて、一般では約8割の人が、また、文化芸術団体では9割以上の人が、日常生活の中で文化芸術に触れることに関し、重きを置いていることが分かる。

(表2) 団体 × 重要度

	重要だと思う	どちらかといえば重要	あまり重要と思わない	重要だと思わない	無回答	合計
一般	78 28%	131 48%	50 18%	14 5%	1 0%	274
文化芸術団体	503 53%	391 41%	44 5%	9 1%	14 1%	961
合計	581 47%	522 43%	94 8%	23 2%	15 1%	1235

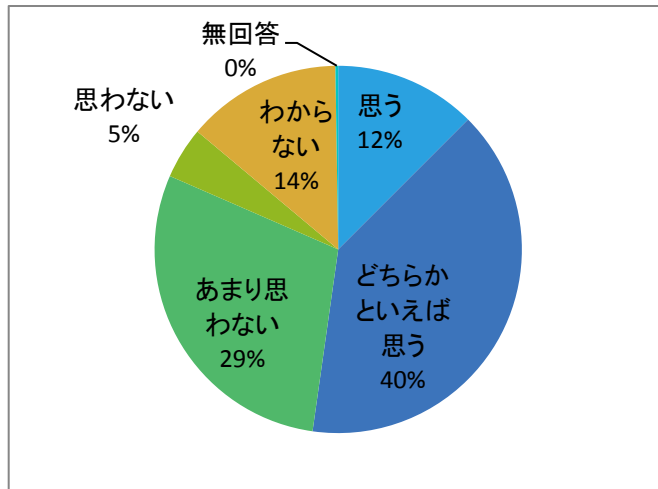
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問3-1 あなたは、駒ヶ根市を『文化芸術活動が盛んなまち』だと思いますか。次の中から1つお選びください。

(表3-1)

	思う	どちらか といえば 思う	あまり思 わない	思わな い	わから ない	無回答	合計
10代	2 50%	0 0%	0 0%	0 0%	2 50%	0 0%	4
20代	1 2%	18 33%	23 42%	1 2%	12 22%	0 0%	55
30代	6 6%	21 20%	34 32%	12 11%	32 30%	0 0%	105
40代	8 6%	43 34%	39 30%	18 14%	20 16%	0 0%	128
50代	20 11%	68 37%	55 30%	11 6%	29 16%	0 0%	183
60代	26 12%	92 42%	62 28%	9 4%	31 14%	0 0%	220
70代	55 15%	176 49%	98 27%	3 1%	27 7%	2 1%	361
80代以上	33 22%	62 41%	43 28%	1 1%	12 8%	1 1%	152
合計	151 12%	480 40%	354 29%	55 5%	165 14%	3 0%	1208

(グラフ3-1)



●文化芸術活動が盛んかどうかについて
全体で「思う」、「どちらかといえば思う」を合わせて半数以上の方が駒ヶ根市は文化芸術活動が盛んなまちだと感じている。

若い世代(20代、30代、40代)では、「あまり思わない」、「思わない」と感じている人の割合が4割以上いる。

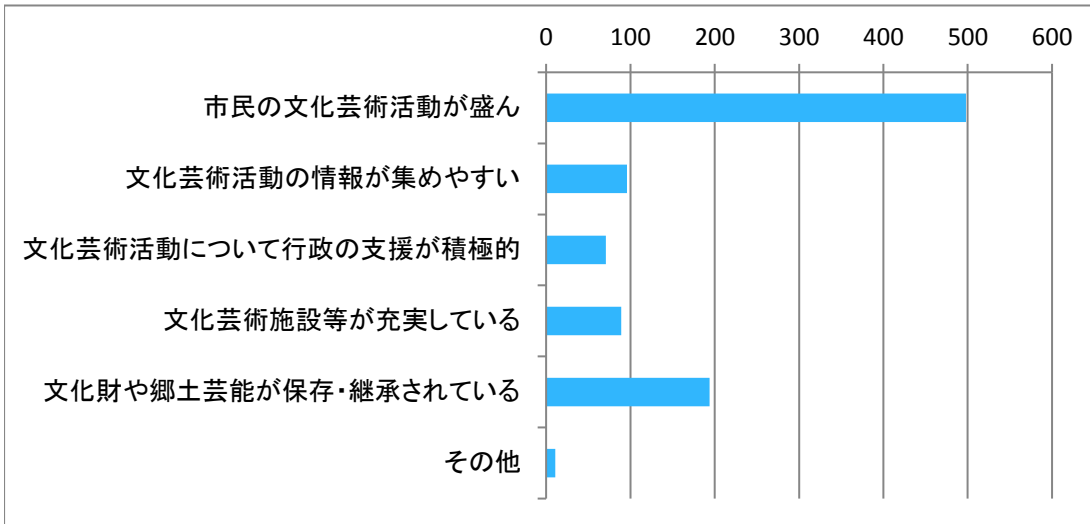
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問3-2 問3で「思う」又は「どちらかといえばそう思う」と回答した方は、その理由を次の中から2つまでお選びください。

(表3-2)

	市民の文化芸術活動が盛ん	文化芸術活動の情報が集めやすい	文化芸術活動について行政の支援が積極的	文化芸術施設等が充実している	文化財や郷土芸能が保存・継承されている	その他	無回答	合計
一般市民	53 48%	11 10%	11 10%	16 14%	17 15%	2 2%	1 1%	111
文化芸術団体	445 52%	85 10%	60 7%	73 9%	177 21%	9 1%	3 0%	852
合計	498 52%	96 10%	71 7%	89 9%	194 20%	11 1%	4 0%	963

(グラフ3-2)



文化芸術の活動が盛んと感じる要因の52%は、市民の自主的な活動によるものである。また、文化財や郷土芸能が保存・継承されているという意見も20%あった。

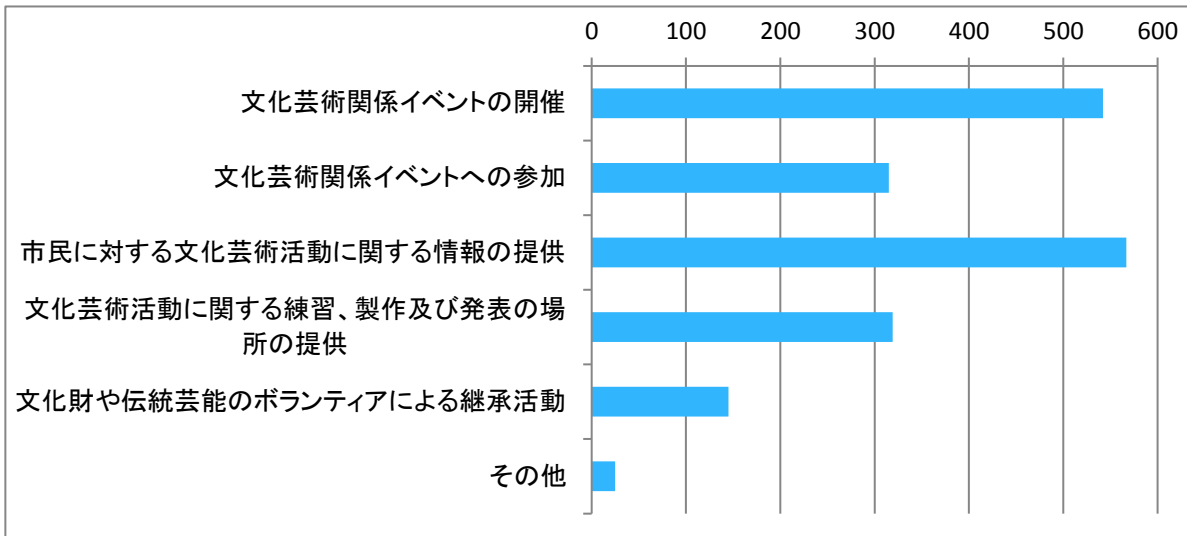
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問4 市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市民や文化芸術団体が行うものとして何が必要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

(表4)

	文化芸術関係イベントの開催	文化芸術関係イベントへの参加	市民に対する文化芸術活動に関する情報の提供	文化芸術活動に関する練習、製作及び発表の場の提供	文化財や伝統芸能のボランティアによる継承活動	その他	無回答	合計
合計	542 27%	315 16%	567 28%	319 16%	145 7%	25 1%	80 4%	1993

(グラフ4)



市民や文化芸術団体に対して、駒ヶ根市を「文化芸術活動が盛んなまち」と印象付けるには「文化芸術関係活動(イベント)の開催」及び「文化芸術活動に関する情報の提供」(イベント告知、活動メンバー募集等)が求められている。また、イベントを支えるための、「練習、製作及び発表場所の提供」や、「文化芸術関係イベントへの参加」も求められている。

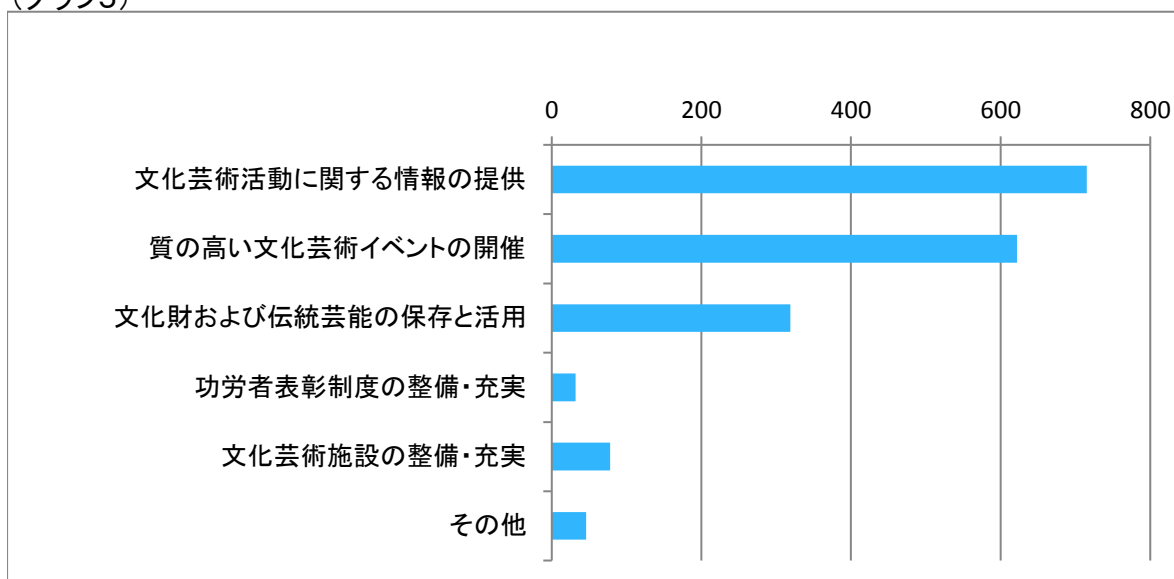
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問5 あなたは、市民の文化芸術活動がもっと盛んになるために、市が行うものとして何が重要だと思いますか。次の中から2つまでお選びください。

(表5)

	文化芸術活動に関する情報の提供	質の高い文化芸術イベントの開催	文化財および伝統芸能の保存と活用	功労者表彰制度の整備・充実	文化芸術施設の整備・充実	その他	無回答	合計
合計	715 38%	622 33%	319 17%	32 2%	78 4%	46 2%	69	1881

(グラフ5)



市は「質の高い文化芸術イベントを開催」し、「文化芸術活動に関する情報」を催物の世代に合った多様な方法で発信することが求められている。また、「文化財および伝統芸能の保存と活用」も17%選択されている。

その他の主な内容: 市による料金補助など(9人)、活動している人への支援(6人)、子どもに文化に触れる機会を与える(5人)

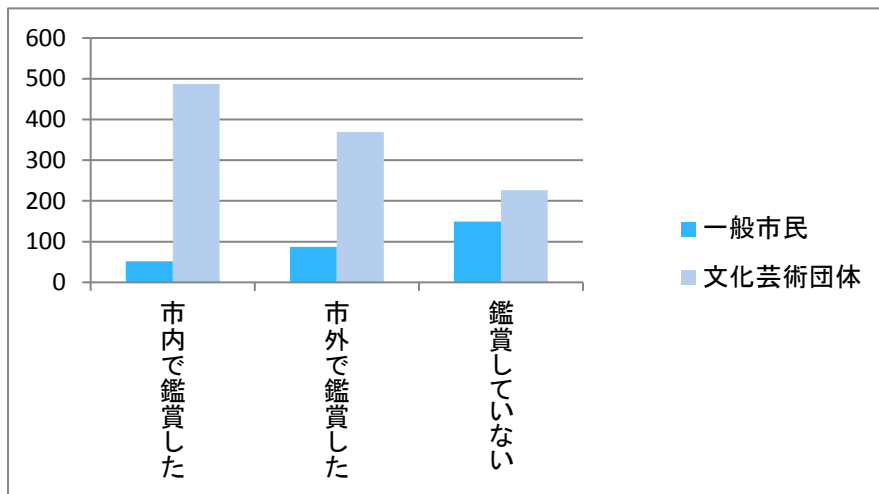
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問6 あなたは、この一年間で文化芸術の催物などを鑑賞しましたか。あてはまるものに○をしてください。

(表6)

	市内で鑑賞した	市外で鑑賞した	鑑賞していない	無回答	合計
一般市民	52 18%	87 30%	149 52%	0 0%	288
文化芸術団体	487 43%	369 33%	226 20%	42 4%	1124
合計	539 38%	456 32%	375 27%	42 3%	1412

(グラフ6)



文化芸術団体に属している人は、市内外で鑑賞する積極性を持っており、加入していない人は市外で鑑賞する割合が高くなっている。

(表6-1)年代×鑑賞の有無

	市内で鑑賞した	市外で鑑賞した	鑑賞していない	合計
10代	2 40%	3 60%	0 0%	5
20代	18 31%	19 32%	22 37%	59
30代	20 18%	26 23%	65 59%	111
40代	36 26%	54 39%	49 35%	139
50代	60 29%	77 38%	68 33%	205
60代	116 45%	94 36%	50 19%	260
70代	195 48%	134 33%	77 19%	406
80代以上	81 51%	41 26%	37 23%	159

20代、30代では文化芸術を鑑賞をしていない人が多い。(20代:37%、30代:59%)
鑑賞場所は、若い世代は市外で鑑賞することが多く、高齢の方は市内で鑑賞することが多い。

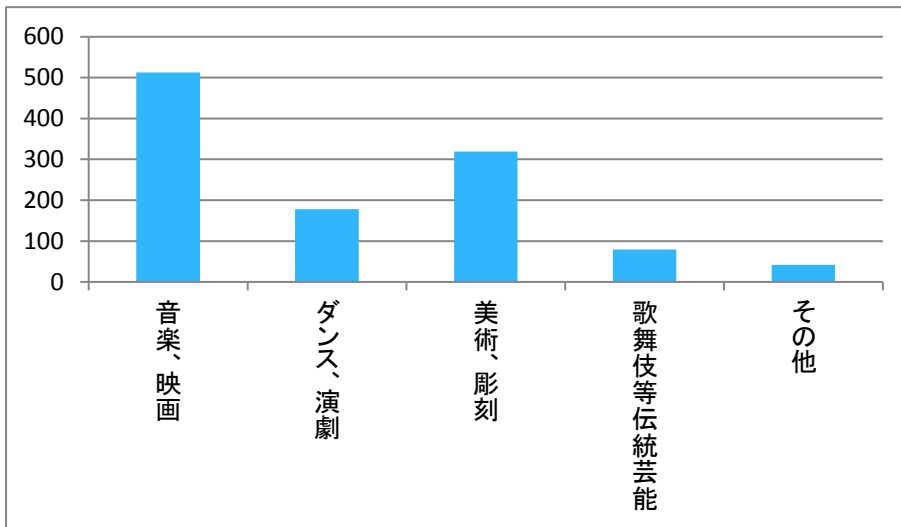
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問6-2 問6で「鑑賞した」と回答した方は、どのような催物を鑑賞しましたか。次の中から2つまでお選びください。

(表6-2)

	音楽、映画	ダンス、演劇	美術、彫刻	歌舞伎等伝統芸能	その他	合計
合計	513	178	319	79	42	1131
	45%	16%	28%	7%	4%	

(グラフ6-2)



回答者の45%が、「音楽・映画」を鑑賞している。

「その他」の内容(多い順)

- ・写真(7人)
- ・生花(5人)
- ・書道(2人)
- ・水墨画(2人)
- ・手芸(2人)

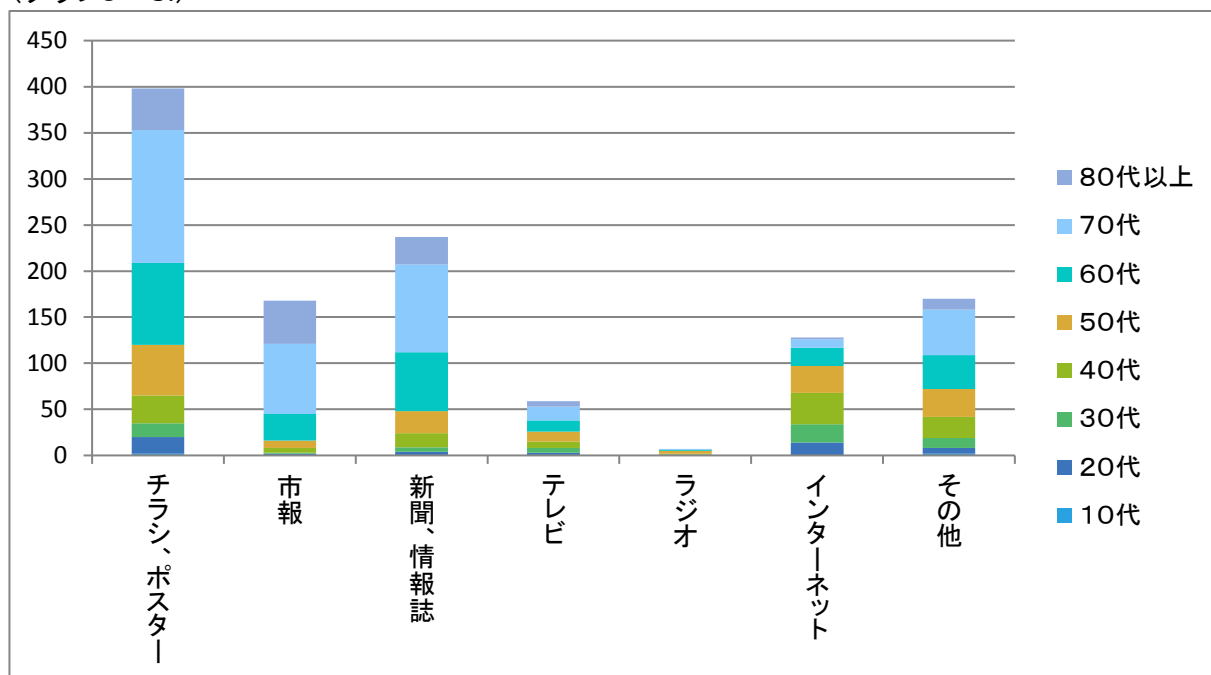
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問6-3 問6で「鑑賞した」と回答した方は、その催しの情報を何で知りましたか。あてはまるものに○をしてください。

(表6-3)年代別情報入手方法

	チラシ、ポスター	市報	新聞、情報誌	テレビ	ラジオ	インターネット	その他	合計
10代	2	0	0	0	0	0	2	4
	50%	0%	0%	0%	0%	0%	50%	
20代	18	2	4	3	1	14	6	48
	38%	4%	8%	6%	2%	29%	13%	
30代	15	1	5	5	0	20	11	57
	26%	2%	9%	9%	0%	35%	19%	
40代	30	5	15	7	1	34	23	115
	26%	4%	13%	6%	1%	30%	20%	
50代	55	8	24	11	3	29	30	160
	34%	5%	15%	7%	2%	18%	19%	
60代	89	29	64	12	1	20	37	252
	35%	12%	25%	5%	0%	8%	15%	
70代	144	76	95	15	1	9	49	389
	37%	20%	24%	4%	0%	2%	13%	
80代以上	45	47	30	6	0	2	12	142
	32%	33%	21%	4%	0%	1%	8%	
合計	398	168	237	59	7	128	170	1167
	34%	14%	20%	5%	1%	11%	15%	

(グラフ6-3.)



全体的に「チラシやポスター」(34%)や「新聞、情報誌」(20%)、また、高齢の方(80代の33%、70代の20%)は「市報」により情報を入手する人が多い。

若い人は、「チラシやポスター」とともに、「インターネット」を選択する人が多かった。(20代:29%、30代:35%、40代:30%)

「その他」のうち、61%は「家族から」や「友人や知人から」で最も多く(107人)、他には「主催者からの情報」(8人)、「口コミ」(8人)、「有線放送」(5人)などであった。

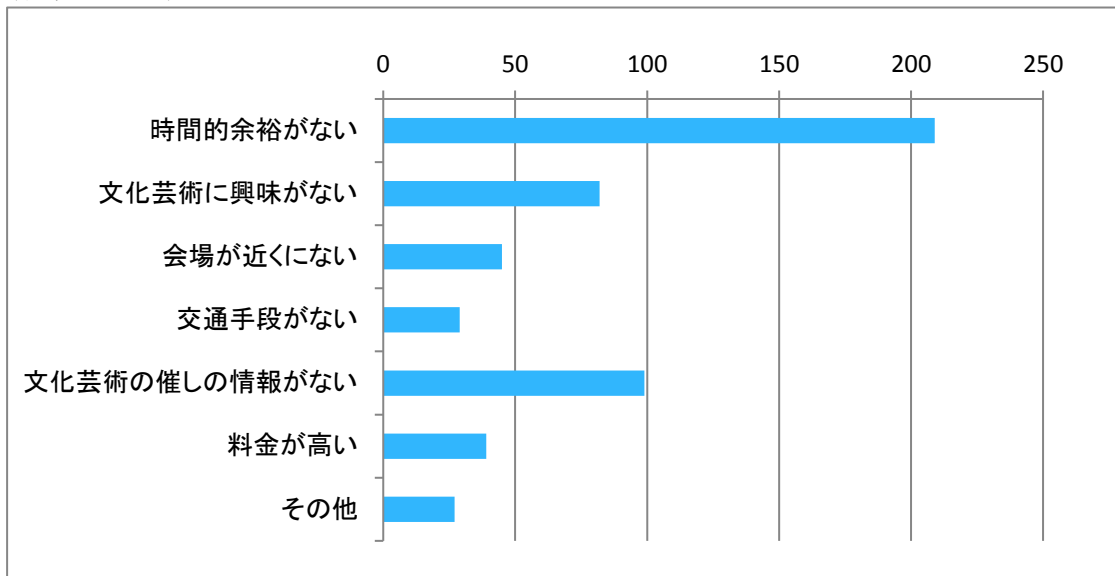
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問6-4 問6で「鑑賞していない」と回答した方は、その理由を次の中から2つまでお選びください。

(表6-4)

	時間的余裕がない	文化芸術に興味がない	会場が近くにない	交通手段がない	文化芸術の催しの情報がない	料金が低い	その他	無回答	合計
10代	0	0	0	0	0	0	0	0	0
20代	15 41%	11 30%	2 5%	0 0%	7 19%	1 3%	1 3%	37	74
30代	46 48%	16 17%	7 7%	0 0%	19 20%	4 4%	4 4%	96	192
40代	34 47%	13 18%	5 7%	0 0%	13 18%	6 8%	2 3%	73	146
50代	48 50%	15 16%	7 7%	1 1%	11 11%	8 8%	6 6%	96	192
60代	23 35%	7 11%	7 11%	4 6%	14 21%	5 8%	6 9%	66	132
70代	33 31%	14 13%	11 10%	10 9%	23 22%	12 11%	3 3%	106	212
80代以上	7 15%	5 11%	6 13%	12 26%	9 19%	3 6%	5 11%	47	94
合計	209 39%	82 15%	45 8%	29 5%	99 18%	39 7%	27 5%	9	539

(グラフ6-4)



「時間的余裕がない」と回答した人が40%近くを占めている。

「文化芸術の催しの情報がない」と感じている人が20%近くいる。

「催しの情報がない」と回答している割合が高いことは、各世代のニーズと市や文化芸術団体が発信する催事情報提供の方法や情報提供先がミスマッチしていることが考えられる。

20代で、「文化芸術に興味がない」と感じている人が30%おり、「時間的余裕がない」の41%に次いで多い。

80代以上の回答者で、「交通手段がない」を選択している割合が26%と最も高いことから、高齢者にとって交通手段の確保が課題となっている。

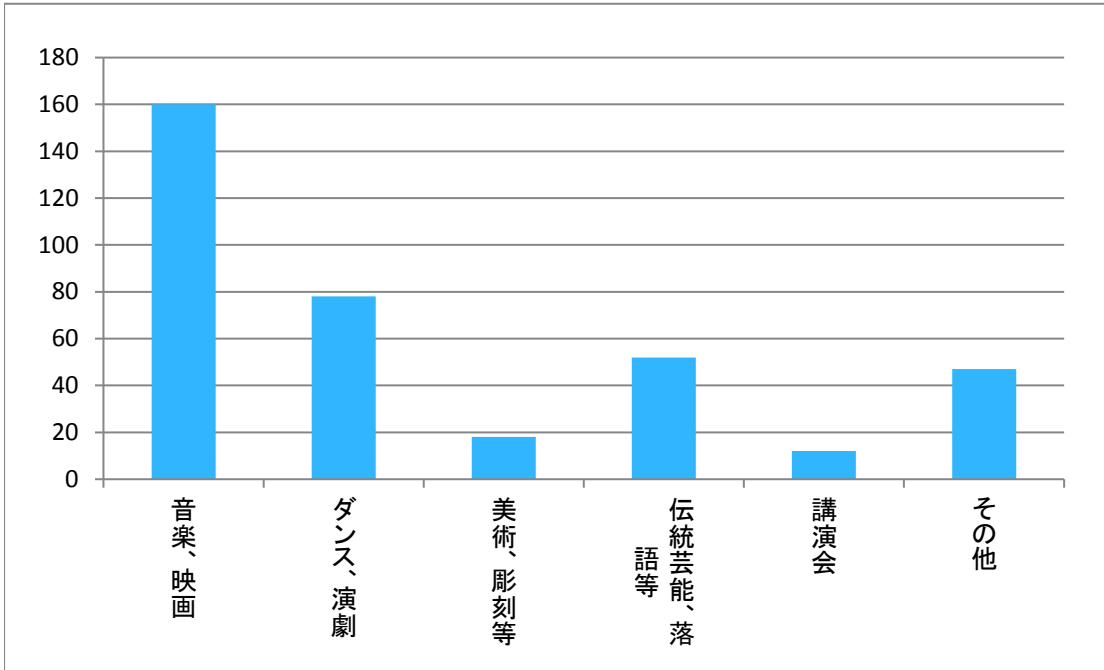
その他の内容: 観たいものがない(7人)、子育てや介護で出られない(5人)など。

駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問6-5 駒ヶ根市文化会館の催物で、開催してほしい演目などについて教えてください。
(表6-5)

	音楽、 映画	ダンス、 演劇	美術、 彫刻等	伝統芸 能、落 語等	講演会	その他	合計
合計	160	78	18	52	12	47	367
	44%	21%	5%	14%	3%	13%	

(グラフ6-5)



内訳

- ・オーケストラ・管弦楽(33人)
- ・有名歌手のコンサート(20人)
- ・映画(30人)
- ・ミュージカル、劇団四季(16人)
- ・演劇(37人)
- ・歌舞伎、能(29人)
- ・落語(18人)
- ・美術展覧、工芸展覧(15人)
- ・講演会(12人)

その他

- ・親子向けコンサートや劇など親子で楽しめるイベント(10人)
- ・市民参加体験型の物、化学実験、演劇ワークショップなど(4人)
- ・大相撲、サーカス、浮世絵、人形浄瑠璃、TAO、模型展、刀剣展他(各1人)
- ・観光客も取り込むような催し

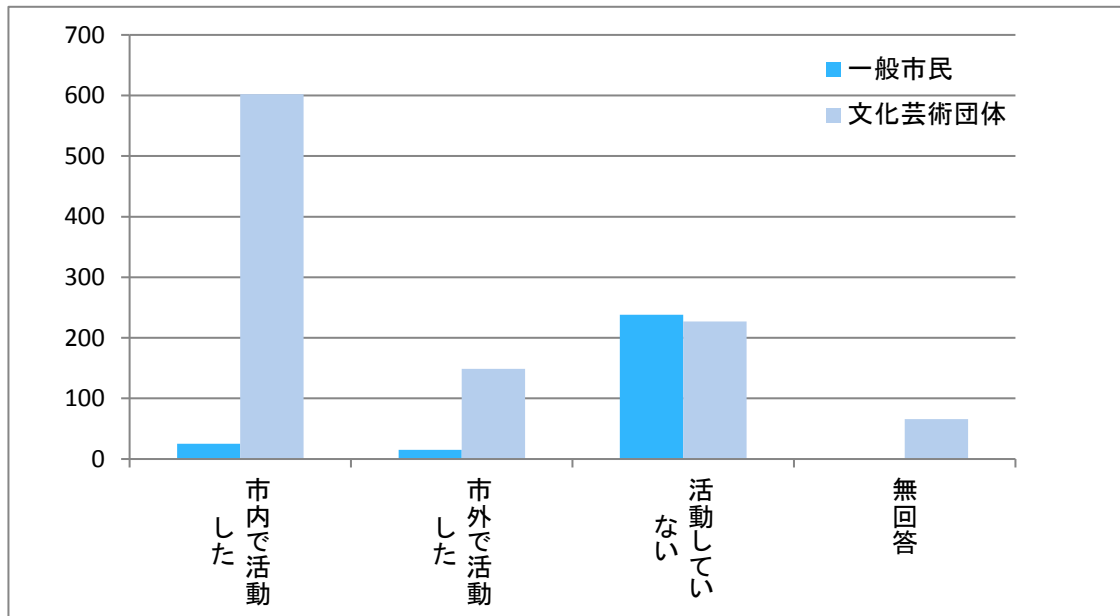
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問7 あなたは、この一年間に、趣味やサークル活動などで、ご自分で演じたり、作ったり、描いたりなどの文化芸術活動をしましたか。

(表7)

	市内で活動した	市外で活動した	活動していない	無回答	合計(のべ)
一般市民	25 9%	15 5%	238 86%	0 0%	278
文化芸術団体	602 58%	149 14%	227 22%	66 6%	1044
合計	627 47%	164 12%	465 35%	66 5%	1322

(グラフ7)



文化芸術団体に属する人の7割は市内で活動している。
属していない人の86%は文化芸術活動をしていない。

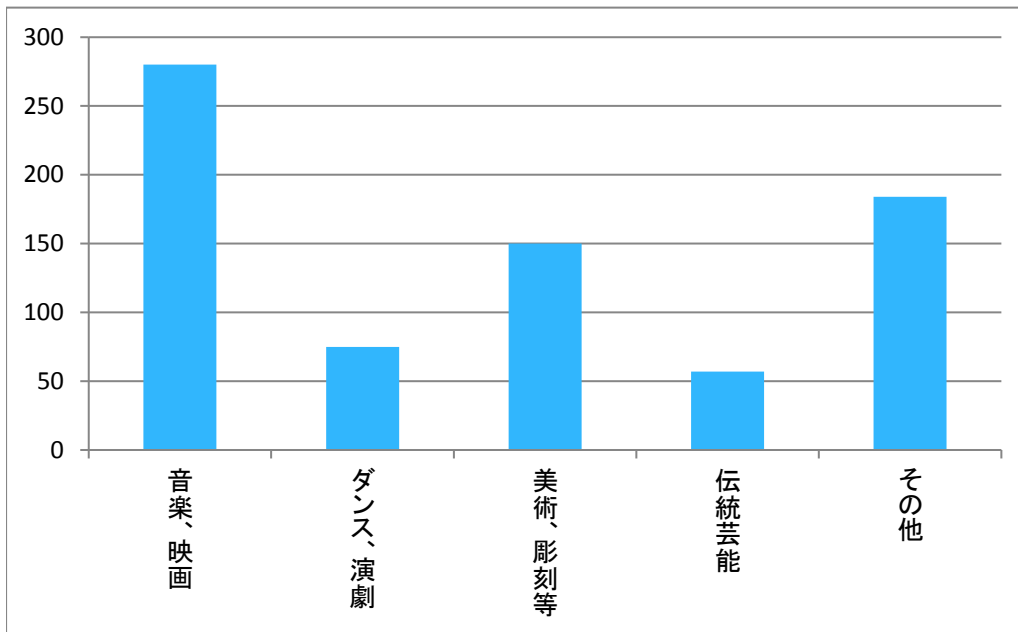
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問7-2 問7で「活動をした」と回答した方は、どのような活動をしましたか。次の中から主なものを2つまでお選びください。

(表7-2)

	音楽、映画	ダンス、演劇	美術、彫刻等	伝統芸能	その他	合計
合計	280	75	150	57	184	746
	38%	10%	20%	8%	25%	

(グラフ7-2)



鑑賞したジャンルと同様に、「音楽、映画、美術、彫刻」の活動が盛んである。

その他の内容

- ・手芸(28人)
- ・書道(12人)
- ・写真(11人)
- ・詩吟(9人)

他には踊り、古文書解読、模型製作、俳句、工芸、水墨画等々があった。

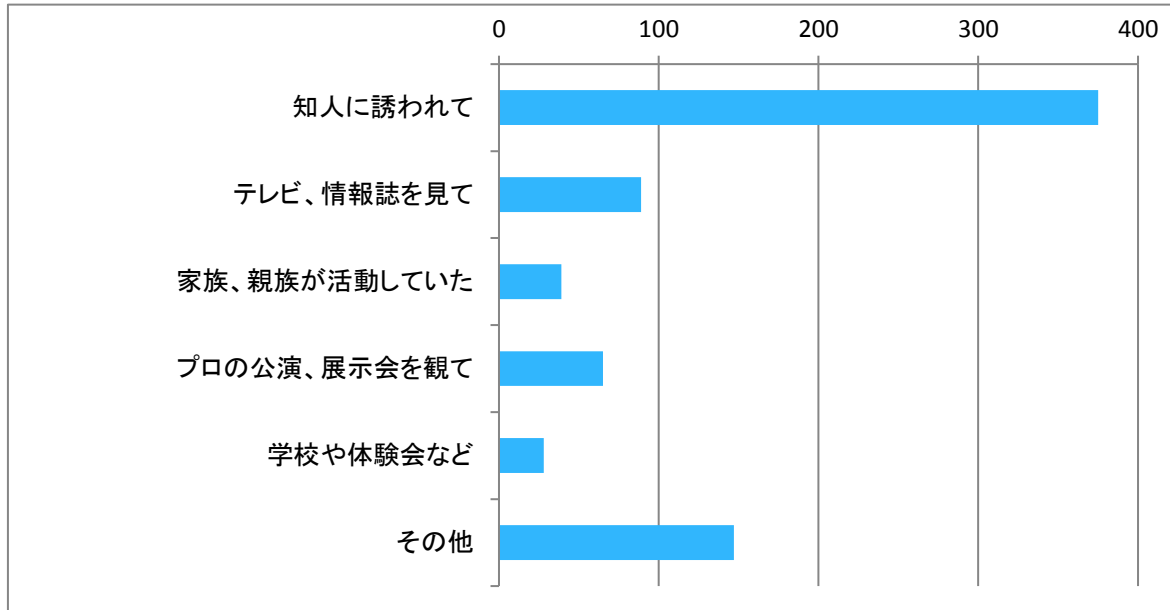
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問7-3 問7で「活動をした」と回答した方は、そのきっかけとなった理由を次の中から2つまでお選びください。

(表7-3)

	知人に誘われて	テレビ、情報誌を見て	家族、親族が活動していた	プロの公演、展示会を観て	学校や体験会など	その他	合計
合計	375	89	39	65	28	147	743
	50%	12%	5%	9%	4%	20%	

(グラフ7-3)



知人からの口コミと、テレビ、情報誌等を見て、又は、プロの公演・展示を鑑賞したことが、活動の理由として多い。

良質な文化芸術の鑑賞に触れる機会と始める後押しがあれば、日常生活の中で自ら活動を行うことができる。

その他の内容: サークル活動(64人で「その他」のうち48%)、行事で見て(9人)、興味があったから(7人)等々。

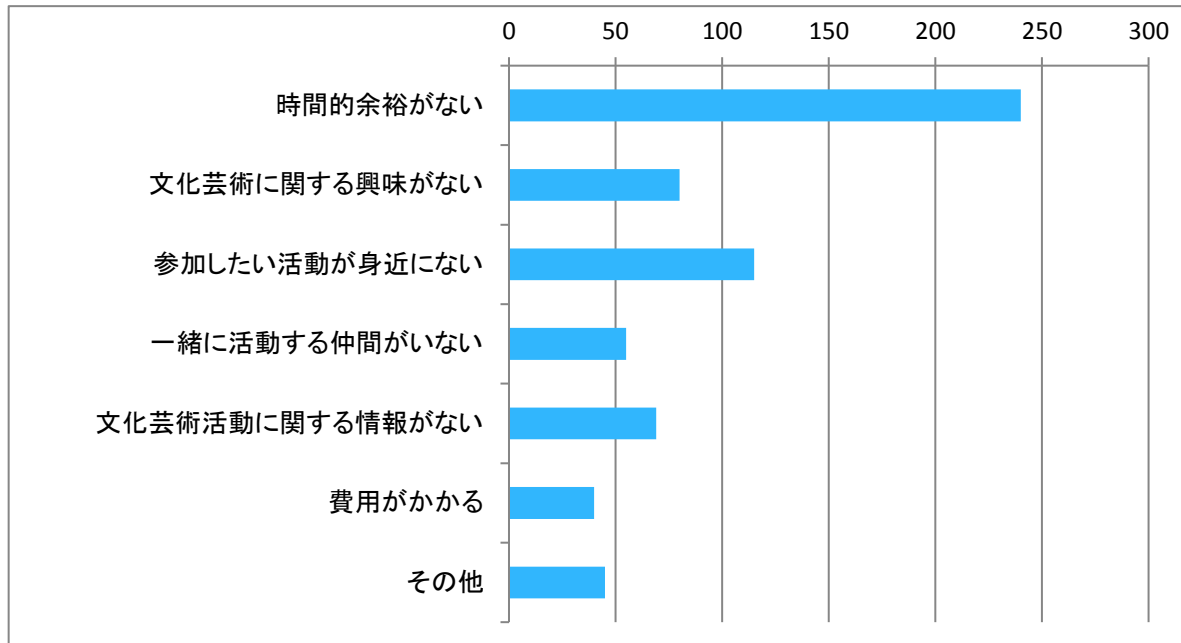
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問7-4 問7で「活動していない」と回答した方は、その理由を次の中から2つまでお選びください。

(表7-4)

	時間的余裕がない	文化芸術に関する興味がない	参加したい活動が身近にない	一緒に活動する仲間がない	文化芸術活動に関する情報がない	費用がかかる	その他	合計
合計	240	80	115	55	69	40	45	644
	37%	12%	18%	9%	11%	6%	7%	

(グラフ7-4)



活動していない理由は、「時間的余裕がない」(37%)に続き、「参加したい活動が身近にない」(18%)があがっている。

その他の内容:自分でするより鑑賞するほうが好き(11人)、高齢のため(10人)等々。

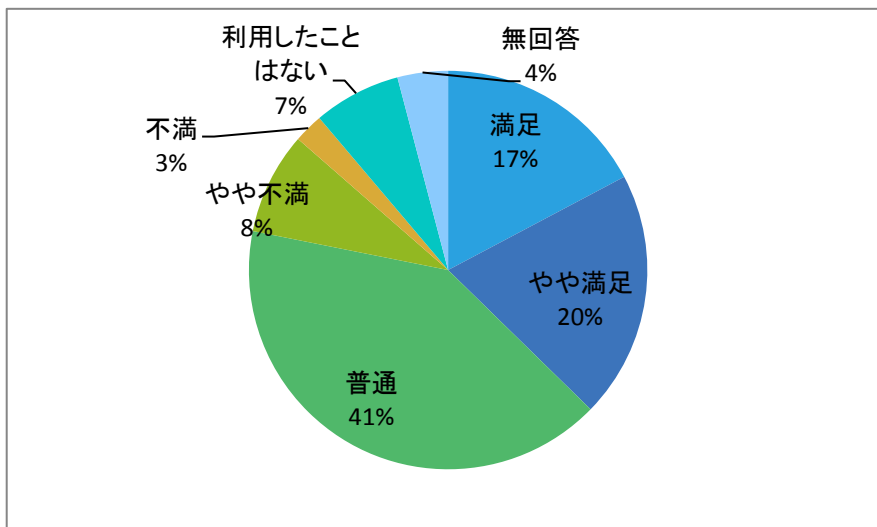
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問8 市の施設での活動や発表の場所、また鑑賞などの場所は、文化センターや公民館等が中心だと思いますが、現在の施設・設備を利用するの満足度を次の中から1つお選びください。

(表8)

	満足	やや満足	普通	やや不満	不満	利用したことはない	無回答	総数
10代	1 25%	0 0%	3 75%	0 0%	0 0%	0 0%	0 0%	4
20代	9 16%	7 13%	24 44%	3 5%	0 0%	12 22%	0 0%	55
30代	11 11%	16 16%	42 41%	6 6%	1 1%	25 24%	2 2%	103
40代	17 13%	16 13%	52 41%	16 13%	6 5%	18 14%	2 2%	127
50代	26 15%	34 19%	74 42%	17 10%	7 4%	18 10%	2 1%	178
60代	40 19%	46 22%	91 43%	18 9%	3 1%	3 1%	9 4%	210
70代	67 19%	83 24%	144 41%	26 7%	8 2%	5 1%	18 5%	351
80代以上	31 22%	33 23%	48 34%	11 8%	3 2%	2 1%	15 10%	143
合計	202 17%	235 20%	478 41%	97 8%	28 2%	83 7%	48 4%	1171

(グラフ8)



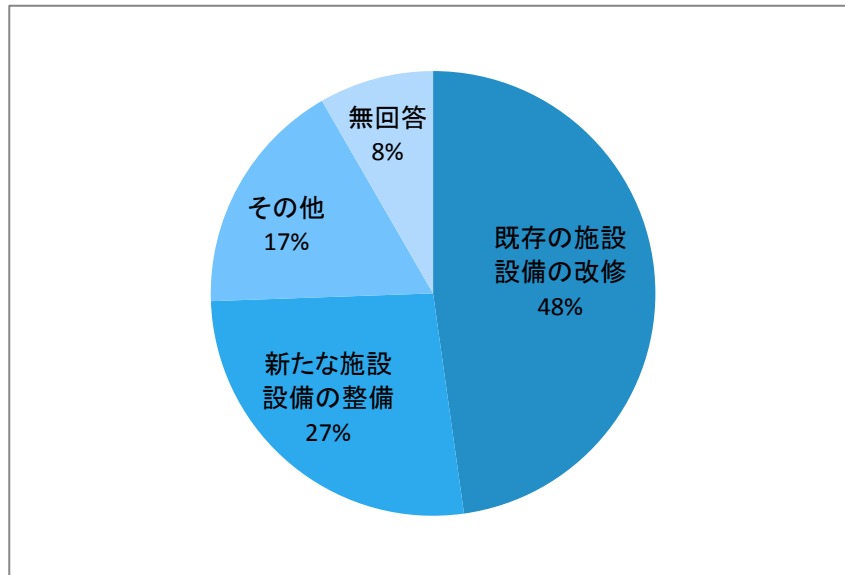
市内施設の満足度は「普通」と感じている方(41%)が最も多かった。合わせて37%の方が市内施設については、「満足」と「やや満足」と感じている。一方で、20代から40代のうち文化施設を「利用したことがない」を選択していた方は、「普通」について多かった。(20代:22%、30代:24%、40代:14%)

問8-2 問8で「やや不満」「不満」と回答した方は何が必要だと思いますか。次の中から1つお選びください。

(表8-2)

	既存の施設設備の改修	新たな施設設備の整備	その他	無回答	合計
合計	86 48%	48 27%	31 17%	15 8%	180

(グラフ8-2)



具体的な内容

「既存の施設・設備を改修」

- ・文化センタートイレの改修（15人）
- ・駐車場の拡張整備（文化センター、公民館）（7人）
- ・エアコン設置（7人）
- ・音響設備の充実（2人）
- ・音楽など練習場所（2人）
- ・バリアフリー化（2人）

「新たな施設設備の整備」

- ・美術館（7人）
- ・音響の整った施設（7人）

「その他」

- ・施設ではなく、内容を考えて欲しい（4人）
- ・駐車場が狭い（3人）
- ・博物館の充実（2人）
- ・施設利用料が高く、利用しにくい
- ・空き家などを改修し、美術館などに利用してほしい
- ・休日の練習場所が欲しい
- ・インターネット等での配信
- ・楽器練習場所が少なく、公民館も事前予約が必要

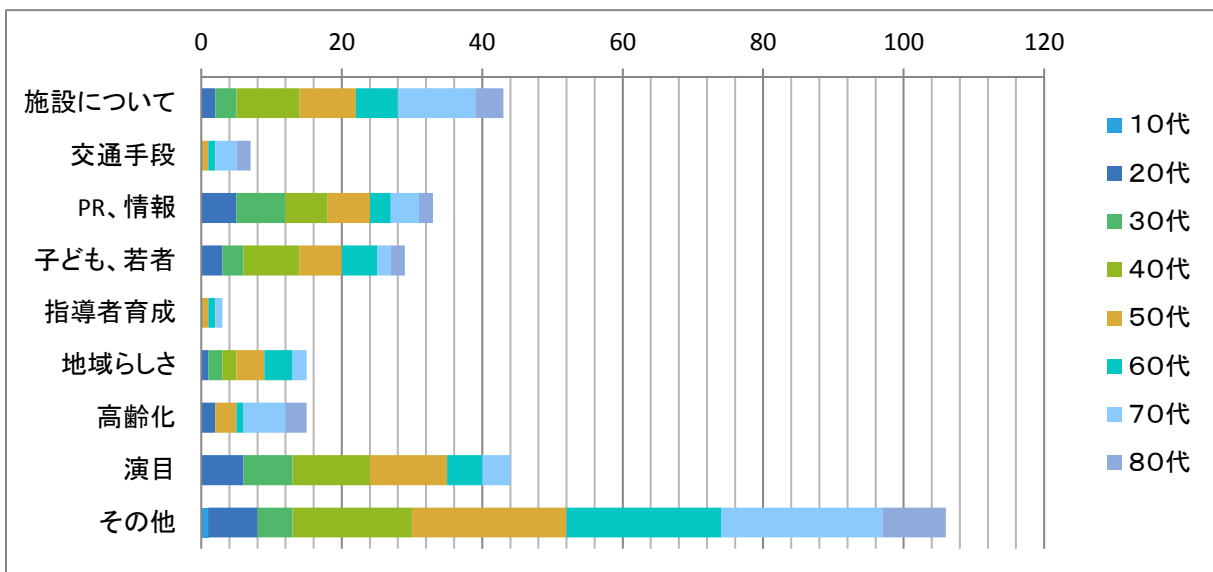
駒ヶ根市の文化芸術に関するアンケート調査結果

問9 市の文化芸術の現状や課題、今後の進むべき方向性などについて、ご意見をご自由にお書きください。

(表9)

	施設について	交通手段	PR、情報	子ども、若者	指導者育成	地域らしさ	高齢化	演目	その他	合計
10代	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
20代	2	0	5	3	0	1	2	6	7	26
30代	3	0	7	3	0	2	0	7	5	27
40代	9	0	6	8	0	2	0	11	17	53
50代	8	1	6	6	1	4	3	11	22	62
60代	6	1	3	5	1	4	1	5	22	48
70代	11	3	4	2	1	2	6	4	23	56
80代	4	2	2	2	0	0	3	0	9	22
合計	43	7	33	29	3	15	15	44	106	295

(グラフ9)



(表9-演目の希望内容)

	音楽、映画	ダンス、演劇	美術、工芸	伝統芸能
10代	0	0	0	0
20代	4	1	1	0
30代	3	1	2	1
40代	4	1	4	2
50代	3	2	3	3
60代	2	0	0	3
70代	3	0	1	0
80代	0	0	0	0
合計	19	5	11	9
	43%	11%	25%	20%

(グラフ9-演目の希望内容)

